

遺族大川小 最愛の人を守る備えを 兵庫の高校生らに講演

あすへ
東日本大震災

東日本大震災で石巻市旧大川小6年だった長男大輔さん(当時12)を亡くした今野浩行さん(59)、ひとみさん(51)夫妻(石巻市)が8日、兵庫県の高校生らを前に講演した。大川小事故の真相解明のために他の遺族らと訴訟を起こした経緯を振り返り「最愛の人の命を守るために防災力を高めてほしい」と呼び掛けた。兵庫県が進める高校生らの防災ジュニアリーダー育成事業の一環で、兵庫県舞子高など6校の生徒40人が宮城県を訪問。講演は舞子高が毎年ボランティアで訪れる東松島市あおい地区の集会所であった。

浩行さんは児童70人が死亡、4人が行方不明となった事故について「原因究明がなく誰も責任を取らなかった」と強調。ひとみさん

は石巻市の第三者委員会の検証に関し「ちぐはぐな内容で真相を知りたくて訴訟に踏み切った」と語った。石巻市と宮城県を相手にした津波訴訟で浩行さんは「犠牲になった子どもたちの声を代弁した」と述べたが「インターネットで見ると堪えない誹謗中傷を書き込まれた」と明かした。生徒からは震災を経験していない世代による伝承に

関する質問があり、浩行さんは「過去の災害に学ぶ姿勢が大切。(大川小事故を)学校の授業に取り入れてもいい」と語った。

洲本市の洲本実業高1年矢野倅也さん(15)は「聞いた話を家族や友人と共有したい」と話した。

講演には、防災ボランティア事業に携わる三重県と、自主参加のむつ市の高校生計37人も参加した。



大川小事故について高校生らに語り掛ける今野さん夫妻